

～みんなでつくる近江八幡らしい新庁舎整備に向けて～

『第5回 近江八幡市庁舎整備基本計画策定委員会』を開催しました。

少子高齢・人口減少社会の進展をはじめとする社会情勢の変化を踏まえつつ、これからの時代にふさわしい市役所庁舎を令和5年度中に竣工するため、その指針となる新たな基本計画を策定することを目的に、各種市民団体や公募市民を含む15名の委員で構成する近江八幡市庁舎整備基本計画策定委員会を設置し、第5回目(最終)の策定委員会を令和2年3月19日(木)14時から文化会館・小ホールで開催しました。

① 市庁舎整備基本計画(案)について

- ・基本計画(案)に関する市の考え方について
- ・基本計画(案)に係る市民説明会、市民会議、パブリックコメントについて

② 意見交換

- ・今後の新庁舎実現に向けた意見・考え方



「市庁舎整備基本計画(案)」のポイントについて

1～2月に実施した市民説明会やパブリックコメントの結果を踏まえた最終計画(案)の主なポイントは、以下のとおりです。(資料の抜粋)

◆計画案の主なポイント(特色) (会議資料より主な箇所を抜粋)

【新庁舎のコンパクト化】

- ・事業費負担の抑制、利用可能な既存公共施設の有効活用、人口減少等の環境変化を見据えた、新庁舎整備規模の抑制
- ・行政機能に特化したコンパクトな新庁舎とし、将来の環境変化に対応できるフレキシブルに利用可能な施設や既存公共施設の連携・活用の見直し・検討を進めていくなど、柔軟な対応が可能な庁舎づくり

【コンパクトながら、まちの改革・成長を促進する、近江八幡らしい新しい庁舎づくり】

- ・手続き・相談等の市民サービス機能をワンストップ化し、市民が動かなくても職員やコンシェルジュが市民目線に立って対応するようなハートフルな庁舎(組織改革・職員連携を高める仕組みづくりの検討含む)
- ・市民が様々なイベントや活動が主体的にできる「創造とつどいの広場」を病院跡地に整備することにより、多様な市民の交流や協働の活性化、周辺公共公益施設と連携したにぎわい創出、障がい児・者や高齢者含めて多様な市民の安心・元気の支援も検討
- ・官庁街周辺の資源を活かした「誰もが相談しやすく居心地のよい庁舎」と「創造とつどいの広場」による、シンボリックでにぎわいのあるエリア形成と、市民広場や隣接地における民間事業参画や市民協働の活動の活性化など、段階的な発展・成長を促進する、近江八幡らしい庁舎や広場整備
- ・ICT技術の活用も図りつつ、既存公共施設の連携含めて、平時・災害時ともに関係部署が密に連携して活動を行えるよう、機動力と総合力を発揮できる庁舎づくり

意見交換：『今後の新庁舎実現に向けた意見』について

基本計画(案)を踏まえた各委員の考え方や意見

機能的な庁舎の展望

- 市民にとって身近で使いやすいサービスが、将来的には市全体で機能的になることが理想。新庁舎はそれを踏まえてサービス提供能力の拡充を図れるようにするべき。
- 人口減少に伴って職員数も減ることになれば、空いた新庁舎のスペースにひまわり館などの機能を収めることも将来的には考えられる。

ワンストップ化を実現する行政

- ひまわり館の発達支援センター機能と新庁舎の連携強化については、行政と市民が一体となって創り上げて方向性を示す必要がある。
- 市役所にどんなサービスがあるか分からない方のために、困りごとを伝えれば相談窓口を紹介してくれる機能が必要。職員の育成や組織の対応力が重要。

ハートフルな庁舎

- 明るく全体を見渡せる庁舎で楽しいと感じるような雰囲気づくりが重要。来庁すれば全て説明できる経験豊富で親切な職員の配置が理想的である。
- 「弱者に強い庁舎」をつくっていきけるように、ソフト面の意見や要望を取り入れて進めながら対策を講じてほしい。
- 庁舎建設にあわせて、市職員の接し方や仕事の在り方を考えていくことが重要。庁舎の機能やICTの活用などは、これをうまく支えるためのものである。
- 共生社会の中で全ての多様性をいかに受け入れられるようにするか、その思いが芽生えるような庁舎ができることが望ましい。
- 「誰もが相談しやすく居心地の良いハートフルな庁舎」が言葉だけにならないように、実感できる庁舎を実現して欲しい。

防災面

- 三河川の集中豪雨による洪水対策を念頭に、市民広場には建物ではなく防災公園の機能を備えた市民の拠り所にしてほしい。
- 防災倉庫はシンボリックな市民広場ではなく、新庁舎の近くに整備する方が連携しやすい。
- 病院跡地で備蓄品・資材・消防ポンプ車などを集中管理することが効率的。有事の際には応援部隊の駐車場や活動空間として、平常時には駐車場、パークアンドライド、イベントに活用できるようにしてほしい。

市民広場(病院跡地)の方向性

- 外国人観光客も集客できるシンボリックな場所が望ましい。例えば、野外ステージのような楽しいイベントでにぎわえば、周辺に宿泊施設や有名な飲食店もできて人が集まる。
- 現在の職員駐車場は、地球温暖化対策などの観点から、公共交通機関の利用など職員の通勤方法を見直すべき。

近江八幡らしさ

- 庁舎整備をきっかけに、未来社会に向けて人と人のつながりが育成され、豊かな近江八幡市が実現するイメージがよい。
- 少子高齢化や外国人との共生など、社会福祉や地域福祉の視点を取り入れた議論が必要と考える。
- 「弱者に強い庁舎」という市役所機能を備えることが、近江八幡市から行政のあり方を変革させていく近江八幡市らしさとなる。

◇お問い合わせ◇

近江八幡市 総合政策部 市庁舎整備推進室
〒523-8501 近江八幡市桜宮町236
TEL：0748-36-5577 FAX：0748-32-2695
E-mail：010428@city.omihachiman.lg.jp



ご意見をお寄せください。今後の取組みの参考にさせていただきます。メールや手紙で市庁舎整備推進室までお届けください。市庁舎整備に関する情報は、市広報や市ホームページをご覧ください。ホームページ ID6972